

読み物教材中心の学習 中学校（第2学年）

取り上げた内容項目

郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する生徒の実態から「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は30%程度であることから、地域の一員としての意識を高めていきたい。

総合的な学習の時間（9月）「地域交流学習」

- ・自分たちが住む郷土について調べたり、地域に出かけ、調査・体験・作業活動を行う。

国語（9月）「盆土産」

- ・家族一人一人が互いの存在感を感じ取り、思いやりながら生活しているさまから、郷土愛や家族愛を感じ取りながら読み取る。

- 主題名：「ふるさとの発展のために」C-（16）
- 実施時期：10月
- 資料名：「ロックンローラー」【「中学校道徳読み物資料集平成24年3月」P66～69】
- ねらい：地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで地域に関わろうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分が住んでいる地域のよさや好きなところについて交流する。（私たちの道徳201ページに記入）	<p>○自分が住んでいる地域のよさや好きなところはどんなところですか。</p>  <p>↑【旭川の街並みの写真】</p>
展開	2 「ロックンローラー」の読み聞かせを聞き、「私」の心情を自分との関わりで類推する。	<p>郷土である旭川に、どのように関わっていけばいいのだろうか。</p> <p>○本屋の潤ちゃんから「友達を集めろ」と言われた「私」はどんなことを思ったでしょう。</p> <p>（予想される生徒の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして私がそんなことをやるの。 ・ 面倒くさい。嫌だな。 <p>○「私」は話合いをしていくうちに、だんだん楽しくなってきた。他の友達にも声をかけようと思ったのは、なぜでしょう。</p> <p>（予想される生徒の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんなアイデアが出てきて、おじさんたちの熱気が面白く感じたから。 ・ 自分にも何かできるかもしれないと思ったから。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆具体的な写真を提示することにより、生徒にイメージをもたせ、本時で学習する内容項目に対する関心を高めます。（ICTの活用）

◆資料の展開をイメージさせながら、主人公の心情の移り変わりを捉えさせます。

段階	学習活動	主な発問等
展 開		<p>○「私」はどんなことを考えて、「銀座商店街4代目か、悪くないね」と言ったのでしょうか。</p> <p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんたちに負けられない。私も頑張るぞ。 ・銀座商店街の未来は、自分たちで切り開けそうだ。
	3 本時の授業を踏まえ、自分たちが旭川市のためにできることについて考えたことを交流し、自分の考えを深める。	<p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら、時代の流れには逆らえないと考え、何もせず諦めたかもしれない。 ・何とかしようと思ひ、友達や周りの大人に相談するかもしれない。
		<p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会のゴミ拾い活動やお祭りなどに参加する。 ・町内会の行事などに生徒会や部活動など、学校の代表として参加する。
終 末	4 教師の説話を聞く。	○旭川市で行事等を受け継いでいる人たちが、どのような思いで活動をしているのかについて話す。
	5 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。

自分だったら、主人公のように考え、行動することができるだろうか。

中心的な発問

◆本時で扱う道徳的価値を自分との関わりで捉えさせます。

旭川市のために、自分たちがこれからできる取組には、どのようなことがあるだろうか。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆展開前段で理解した道徳的価値に基づき、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりします。

◆教師の説話では、教師の体験談や日常の話題、学校・学級での出来事を話すなどして、実践への意欲化を図ります。

外国語(12月)「Presentation2 町紹介」
・学んだ表現を使って自分の町のことについて発表したり、友達の発表を聞いたりして、自分の町への愛着を抱く心を育む。

技術・家庭 家庭分野(1月)「地域の食材と食文化」
・地域の食材を生かす調理などを通して、地域の食文化についての理解を深める。

(授業づくりのポイント②)

読み物教材を取り扱う場合、教師が明確な主題設定を行った指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情の理解のみの指導となりかねません。教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、本時で扱う道徳的価値の理解を深めるようにすることが大切です。